

株主メモ

事業年度	毎年1月1日から12月31日まで
定時株主総会	毎年3月
基準日	
期末配当金	毎年12月31日
中間配当金	毎年6月30日
	その他必要ある場合は、取締役会の決議により、あらかじめ公告いたします。
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 (連絡先) 東京都府中市日鋼町1-1 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-232-711 (通話料無料) (郵送先) 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
単元株式数	100株
公告の方法	電子公告により行いますが、事故その他やむを得ない事由によりできない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。 (公告掲載URL) http://www.tok.co.jp/company/public_notice.html
上場取引所	東京証券取引所 プライム市場
証券コード	4186

ご注意

- 住所変更、単元未満株式（100株未満の株式）の買取請求その他各種お手続きにつきましては、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、左記特別口座の口座管理機関（三菱UFJ信託銀行）にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店においてもお取り扱いいたします。
- 未受領の配当金につきましては、当社定款の規定により、支払開始日より満3年を経過いたしますとお受け取りいただけませんので、お早めに最寄りの三菱UFJ信託銀行本支店でお受け取りください。

株式に関するお手続きについて

お手続き、ご照会等の内容	お問い合わせ先	
	証券会社等の口座に記録された株式	特別口座に記録された株式
<ul style="list-style-type: none"> ■単元未満株式の買取・買増請求 ■住所・氏名等のご変更 ■配当金の受領方法の指定（注） ■マイナンバーに関するお届け・ご照会 	口座を開設されている証券会社等	左記の特別口座の口座管理機関
<ul style="list-style-type: none"> ■特別口座から一般口座への振替請求 		
<ul style="list-style-type: none"> ■支払期間経過後の配当金に関するご照会 ■郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ■株式事務に関する一般的なお問い合わせ 	左記の株主名簿管理人	

(注) 特別口座に記録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として「株式数比例配分方式」は選択いただけません。



IRメール配信を行っています。ぜひご登録ください。

<https://rims.tr.mufig.jp/?sn=4186> ▶▶▶

「明治神宮野球場」に社名看板を掲出

当社をより多くの方に知っていただくことでブランド価値向上を図るために、東京都新宿区にある明治神宮野球場（1塁側・3塁側）に2023年3月から社名看板を掲出しました。明治神宮野球場にご来場の折は、ぜひご覧ください。



コーポレートウェブサイトのリニューアル

2023年4月3日(月)よりコーポレートウェブサイトを全面リニューアルします。今回のリニューアルでは、ご利用の皆様により使いやすく、よりわかりやすいウェブサイトを目指し、デザインを一新しました。これからも内容の充実を図り、より良い情報提供を目指してまいります。

詳しくはこちらから <https://www.tok.co.jp>



tok 東京応化工業株式会社

〒211-0012 神奈川県川崎市中原区中丸子 150 番地
電話 044-435-3000 (代表)



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた見やすいデザインの文字を採用しています。

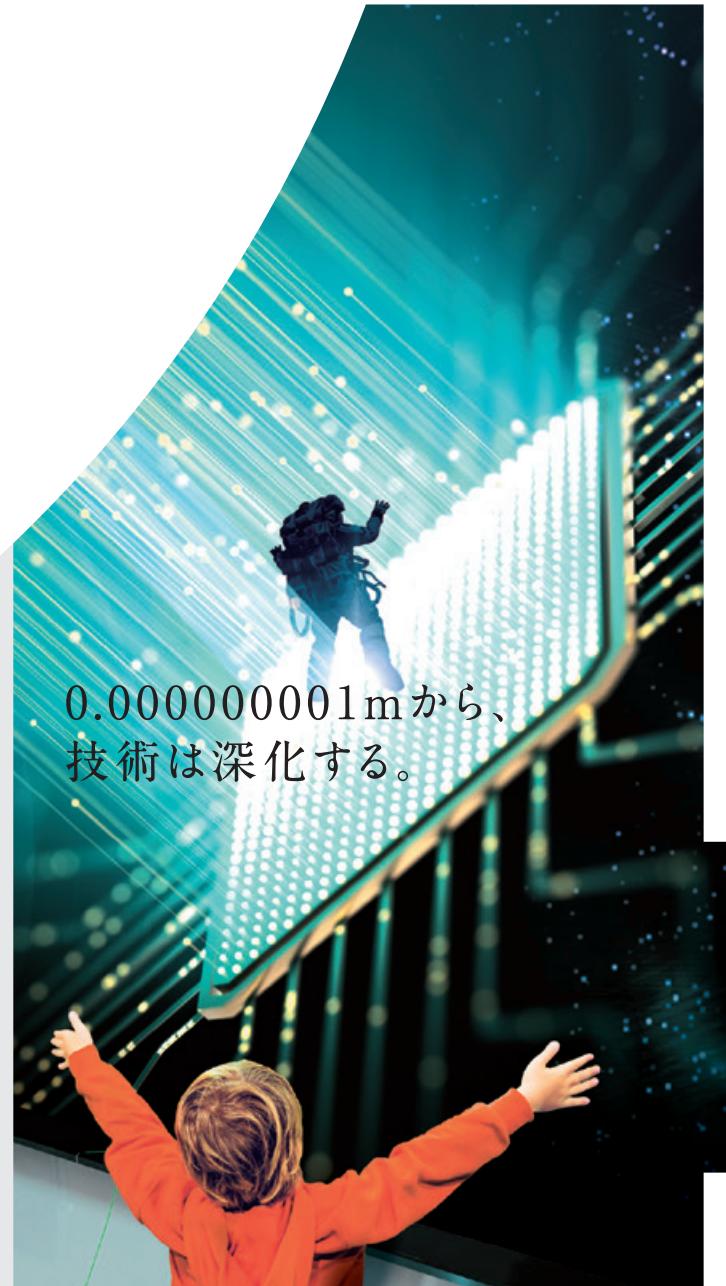
第93期 報告書

2022年1月1日～2022年12月31日

0.000000001mから、
技術は深化する。

豊かな未来、社会の期待に化学で応える
“The e-Material Global Company®”

tok 東京応化工業株式会社





2030年に向けて 異次元に進化し始めた 半導体産業のニーズに応じていく。

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。
当社グループの第93期の業績および今後の取り組みにつきましてご報告申し上げます。

代表取締役 取締役社長 **種市順昭**

Q1 第93期における市場環境および業績について教えてください。

当期のエレクトロニクス市場は、5G*1やIoT*2等の普及に加え、データサーバーの需要増加等が市場を牽引し、半導体需要は前年を上回って推移しました。

このような情勢下において当社グループは、3か年の中期計画「tok中期計画2024」で掲げた目標を達成すべく、営業と開発の連携強化や開発部門の組織再編を行い、先端レジストのグローバルシェア拡大に向けた活動を推進するとともに、電子材料分野や新規分野でのコア技術の獲得/創出に向けた活動を展開してまいりました。また、将来の半導体需要増加を見据えて、国内では郡山工場で新検査棟を建設し検査能力を拡充したことに加えて、熊本県菊池市に工場用地を取得しました。一方、海外では韓国での生産設備増強や台湾での生産能力増強を図るための生産体制変更、米国での孫会社設立による供給体制の整備など製

品のさらなる高品質化とグローバルな生産体制の強化に取り組んできました。さらに国内の主要拠点では購入する電力を再生可能エネルギー由来の電力へ切り替えるといった温室効果ガス排出量削減に向けた活動を加速させたほか、従業員エンゲージメント向上策や「健康経営宣言」の策定、業務効率化のためのDX*3の推進など経営基盤の強化にも努めてきました。

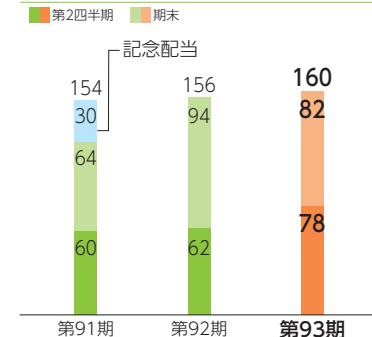
この結果、当期の売上高は1,754億円となりました。材料事業は、旺盛な半導体需要に支えられ、エレクトロニクス機能材料や高純度化学薬品の販売が好調に推移し、売上が大幅に増加しました。装置事業は、受注済み装置の検収が進んだことにより、売上は増加しました。利益面では、原材料価格の高騰による影響を受けたものの売価調整や円安に推移した為替の効果もあり、営業利益は301億円となり、売上、利益ともに、3期連続で過去最高を更新しました。

*1 第5世代移动通信システム *2 モノのインターネット
*3 デジタルトランスフォーメーション

売上高/営業利益 (単位:億円)



配当金の推移 (単位:円)



業績予想(通期) (単位:億円)

	第94期 (予想)	増減率
売上高	1,875	6.9%増
営業利益	310	2.7%増
経常利益	316	2.0%増
親会社株主に帰属する当期純利益	194	1.5%減

Q2 配当金については、いかがですか？

当期末の配当金については、DOE(連結純資産配当率)4.0%を目標とする配当方針に基づき、当初予想から2円増配し82円としました。これにより年間配当金は、第2四半期末配当金78円と合わせ1株につき160円となり、5期連続の増配となりました。

Q3 第94期の見通しについて教えてください。

「tok中期計画2024」の2年目となる今期は、前半にスマートフォンやパソコンの需要減退に伴う半導体の生産調整の影響を受けるものの、新興市場や新規採用品の売上増加を見込んでいることに加えて、年後半には半導体の生産調整が一巡し、再び成長軌道に回帰すると考えていま

す。これを背景に、レガシー半導体に加え最先端半導体プロセスに使用されるエレクトロニクス機能材料や高純度化学薬品の販売が増加すると予想され、今期の売上高は1,875億円を計画しており4期連続で過去最高の売上高を更新する見込みです。また、営業利益についても、原材料価格の高騰、人件費や輸送コストを含めた諸経費の増加の影響を受けるものの、エレクトロニクス機能材料を中心とした高付加価値製品の売上増加から増益基調は続く見込みであることから310億円を計画しており、4期連続の過去最高益を見込んでいます。今期は、2030年のありたい姿である「TOK Vision 2030」の実現に向けて、異次元に進化し始めた半導体産業のニーズに迅速・的確に応えてまいります。

今後も、株主の皆様のご期待に応えられるようグループ一丸となって邁進してまいりますので、株主の皆様におかれましては、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当社のウェブサイトでも2022年12月期決算説明会の模様をご覧くださいませ。

[当社ウェブサイト](#) ▶
 [IR情報](#) ▶
 [決算説明会ビデオ](#)
<https://www.tok.co.jp/ir/movie>

2030年に向けて4つの分野で半導体の進化に貢献し、さらなる成長を目指す

右の4ページは、2030年に向けた長期ビジョン「TOK Vision 2030」にて想定した社会変化に対して、当社グループがどのように貢献していくかを表しています。5Gの普及や6Gといった通信革命によって期待される様々なイノベーションは半導体の進化が必要不可欠であり、また人類が克服すべき社会的課題の一つであるカーボンニュートラルへのチャレンジも半導体の進化

によって達成されるものと考えています。

このような考えのもと、当社グループは、半導体の成長分野を「情報端末」「クラウド」「センシング&IoT」「グリーンエネルギー」の4分野に定義しました。これら4分野において当社グループの製品は、以下の製品に搭載される半導体の製造に使用されています。

情報端末	スマートフォン	モバイルPC
クラウド	データサーバー	AI HPC※
センシング&IoT	電気自動車	自動運転 IoTセンサー
グリーンエネルギー	再生可能エネルギーシステム	

※ ハイパフォーマンス・コンピューティングの略で、膨大なデータに対し複雑な演算処理を高速に実行すること

当社グループの製品ポートフォリオは、これら4分野の発展に今後も貢献するとともに、それぞれの分野でさらに研究開発を加速させ技術革新に寄与する製品を展

開することにより、豊かな未来の実現のために様々な社会的課題の解決を通じて、企業価値向上を目指してまいります。

想定した社会変化に4つの分野で貢献 さらなる成長を目指す



材料事業

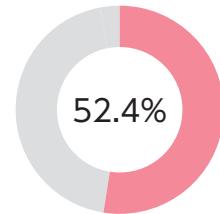
エレクトロニクス機能材料



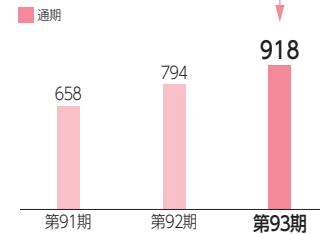
部門別売上高

918億円

売上高構成



売上高推移 (単位: 億円)



売上高は、前年度を大幅に上回る918億円(前年度比15.6%増)となりました。これは、堅調なレガシー半導体需要に加え、最先端半導体プロセスに使用される半導体用フォトレジストや高密度実装材料の販売が好調に推移し、売上が増加したことが主な要因です。

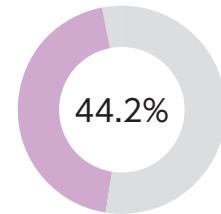
高純度化学薬品



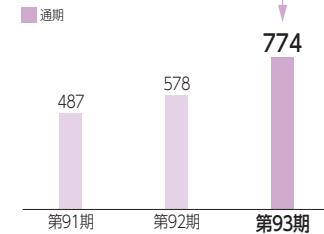
部門別売上高

774億円

売上高構成



売上高推移 (単位: 億円)



売上高は、前年度を大幅に上回る774億円(同34.0%増)となりました。これは、継続的な営業活動の成果や最先端半導体プロセス向けの需要が好調に推移したことにより、半導体用フォトレジスト付属薬品の売上が大幅に上回ったことが主な要因です。

装置事業

プロセス機器

主要製品

- ウエハハンドリングシステム
- プラズマアッシング装置

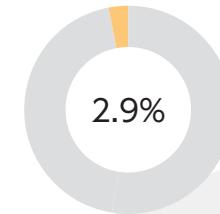


ウエハハンドリングシステム
(先端パッケージ向け)

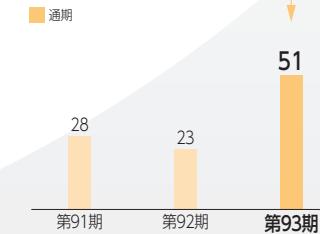
部門別売上高

51億円

売上高構成



売上高推移 (単位: 億円)

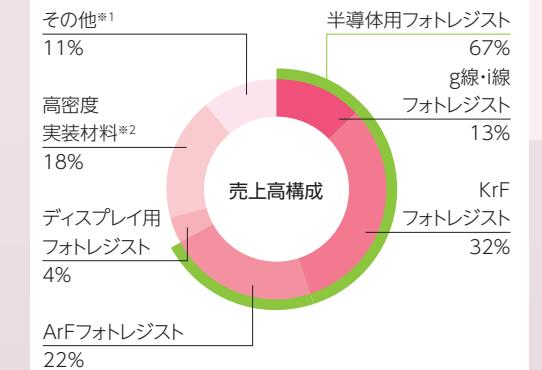


売上高は、前年度を上回る51億円(同119.1%増)となりました。これは、ウエハハンドリングシステム「ゼロニュートン®」等の受注済み製品の検収が進んだことが主な要因です。

エレクトロニクス機能材料の種類別売上高構成

エレクトロニクス機能材料の売上高は、半導体用フォトレジストを中心に、高密度実装材料、ディスプレイ用フォトレジスト、その他で構成されています。

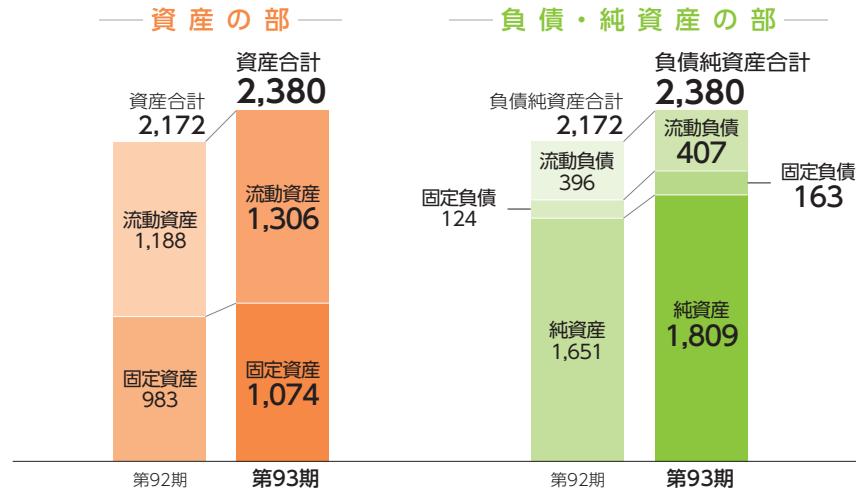
KrFフォトレジストは、中国をはじめとしたアジア地域での使用量増加により、売上高構成は前年度比で増加しました。また、その他は、ここに区分しているEUVフォトレジストが、アジア地域を中心に売上を伸ばしたことに加えて北米でも動き始めたことで、売上高構成は前年度比で増加しました。一方、ディスプレイ用フォトレジストは、中小型液晶パネルの需要環境の変化により、売上高構成は前年度比で減少しました。



*1 EUVフォトレジストはその他に区分
*2 高密度実装材料: パッケージ材料、MEMS材料

連結貸借対照表の概要

(単位:億円)



資産の部

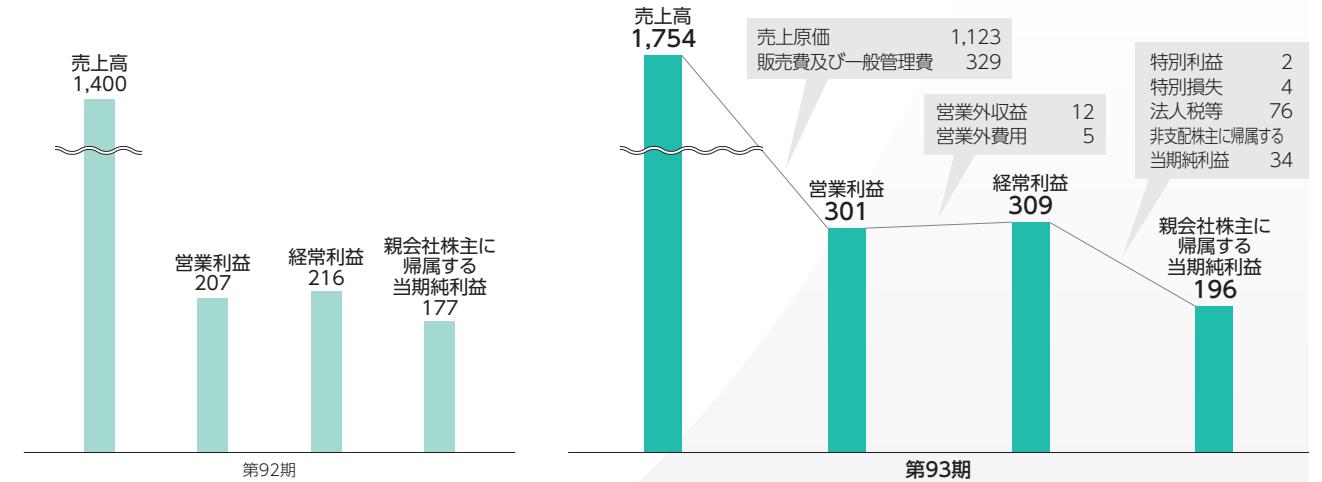
- ・原材料及び貯蔵品と売掛金が増加したことにより、流動資産が増加。
- ・設備投資で有形固定資産が増加したことにより、固定資産が増加。

負債・純資産の部

- ・支払手形及び買掛金と未払金が増加したことにより、流動負債が増加。
- ・親会社株主に帰属する当期純利益を確保したことにより、純資産が増加。

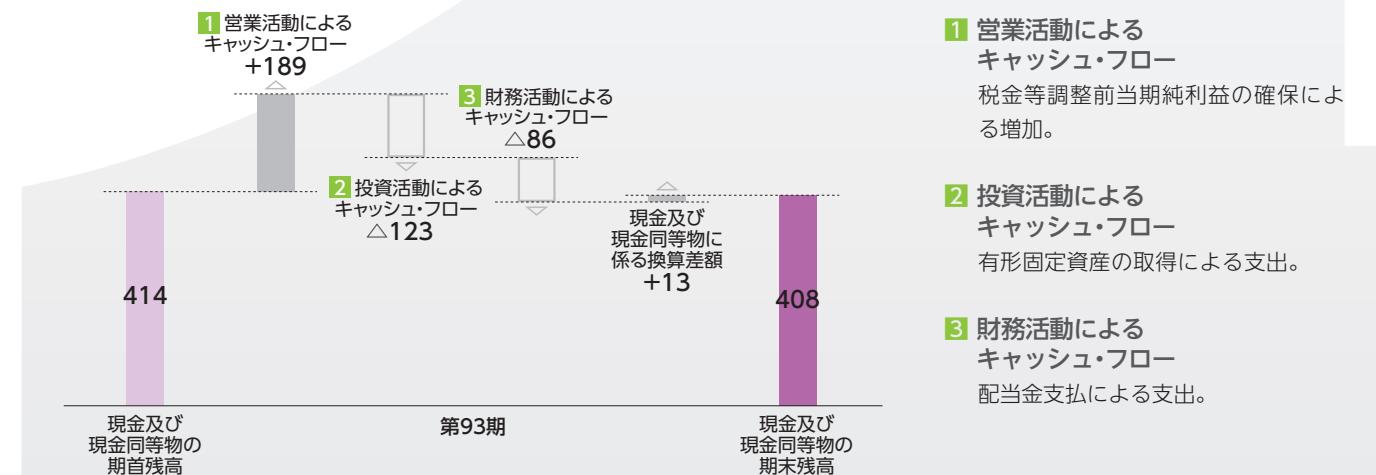
連結損益計算書の概要

(単位:億円)



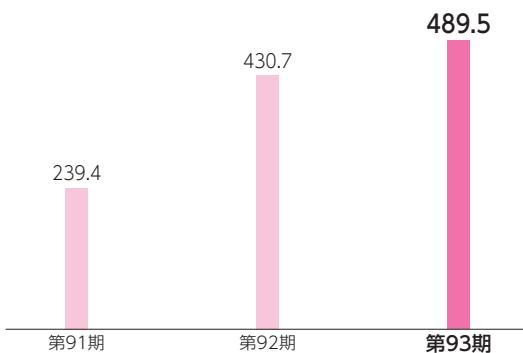
連結キャッシュ・フローの概要

(単位:億円)



1株当たり当期純利益

(単位:円)



自己資本比率

(単位:%)

